

13 文献総合目録

(1) 平成30年度に発表等を行った文献数一覧

(単位：編)

学 会 誌		公刊図書	機関誌	計
論文・報告	発表・講演要旨			
29	133	4	77	243

(2) 平成30年度に発表等を行った文献の目録

01 育種一般及び育種計画

011 総説

1. 生方正俊、早生樹・コウヨウザン 建築材用の造林樹へ期待、グリーンパワー、2018年6月号:6-7、2018.06.
2. 生方正俊、「コウヨウザンの特性と増殖の手引き」を公表、林木育種情報、28:8、2018.07.
3. 田村明、エリートツリー等の原種増産技術の開発に向けて、林木育種情報、28:4、2018.07.
4. 久保田正裕、平成29年度に指定されたスギ特定母樹について、九州育種場だより、37:2、2018.08.
5. 田村明、これまでの品種開発の取組、森林遺伝育種、7(4):151-153、2018.10.
6. 井城泰一、東北育種基本区における特定母樹の開発、東北の林木育種、290:2、2018.10.
7. 倉本哲嗣、エリートツリーの開発とその普及に向けた取り組み、森林と林業、2018年11月号:14-15、2018.11.
8. 山田浩雄、意外と身近な樹木コウヨウザン(広葉杉)、関西育種場だより、87:3、2018.11.
9. 那須仁弥、東北におけるカラマツエリートツリーの選抜と特定母樹の普及、森林・林業技術交流会発表集(東北森林管理局)(平成29年度)、170-172、2018.12.
10. 倉本哲嗣・加藤一隆・高橋誠・星比呂志、花粉症発生源対策のための優良品種開発の取組、森林計画研究会会報、473:4-7、2019.02.
11. 久保田正裕、成長に優れたスギのエリートツリーの開発と普及について、林木育種成果発表会(平成30年度)、5、2019.02.
12. 松下通也、気候変動に適応したスギ育種素材の作出技術開発の取り組み、日本森林学会大会学術講演集、130:S2-6、2019.03.
13. 藤原健、林木育種におけるバイオテクノロジーの開発、林木育種情報、30:1、2019.03.
14. 倉本哲嗣、特集:低コスト再造林に向けた取組~苗木に注目して~エリートツリーの開発とその普及に向けた取組、森林技術、924:8-11、2019.03.
15. 山田浩雄、新たな造林樹種として期待される「コウヨウザン」、森林保険だより、14:7、2019.03.
16. 山田浩雄、平成30年度の開発品種について、関西育種場だより、88:1、2019.03.

012 育種計画

1. 久保田正裕、戦略的プロジェクト研究推進事業「成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発」がスタート、九州育種場だより、38:3、2019.01.

02 遺伝、育種及び変異

021 選抜

1. 中田了五・坂本庄生・西岡直樹・花岡創・来田和人(北海道立総合研究機構林業試験場)・今博計(北海道立総合研究機構林業試験場)・石塚航(北海道立総合研究機構林業試験場)・黒丸亮(北海道立総合研究機構林業試験場)、次代検定林の成績によるトドマツ精英樹集団からの優良系統の選抜、森林総合研究所研究報告、17(2):155-174、2018.06.
2. 宮下久哉・山野邊太郎・大平峰子・坪村美代子・高島有哉・千葉一美・加藤一隆・平岡裕一郎、関東育種基本区におけるカラマツ第二世代精英樹候補木の選抜ー関前17号・32号・33号、関長17号・39号、関名19号における実行結果ー、林木育種センター年報(平成30年版)、106-108、2018.08.
3. 岩泉正和、県との連携による第二世代抵抗性アカマツ品種の開発、森林遺伝育種、7(4):159-161、2018.10.
4. 袴田哲司(静岡県)・山本茂弘(静岡県)・齋藤央嗣(神奈川県)・畑尚子(東京都)・齋藤真己(富

- 山県)・高橋誠、花粉症対策品種「静神不稔1号」、「三月晴不稔1号」(申請中)の開発、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:15、2018.11.
5. 花岡創・中田了五・福田陽子・今博計(道総研林業試験場)・石塚航(道総研林業試験場)、北海道育種基本区におけるアカエゾマツ第2世代精英樹候補木およびカラマツ優良木の選抜ー平成29年度の実施結果ー、林木育種センター年報(平成30年版)、100-102、2019.01.
 6. NAGANO Soichiro(永野聡一郎)・HIRAO Tomonori(平尾知士)・MISHIMA Kentaro(三嶋賢太郎)・TAKAHASHI Makoto(高橋誠)・IKI Taiichi(井城泰一)・TAKASHIMA Yuya(高島有哉)・ISHIGURI Futoshi(石栗太・宇都宮大学)・HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎)、Trait Prediction Models for Selecting Superior F1 Individuals with Multiplex SNP Genotyping System in *Cryptomeria japonica* (Japanese Cedar)(スギF1個体選抜のためのマルチプレックスSNPジェノタイピングシステムを用いた形質予測モデル)、Plant and Animal Genome Conference、27:PE0530、2019.01.
 7. 武津英太郎・倉原雄二・松永孝治・栗田学・倉本哲嗣・村上丈典、九州育種基本区における第二世代精英樹候補木の選抜ー九熊本第146号(スギ)および九熊本第118号・九熊本第131号(ヒノキ)における実行結果ー、林木育種センター年報(平成30年版)、112-116、2019.03.
 8. 岩泉正和、西南日本地域における抵抗性アカマツの追加選抜の取り組みー京都市金閣寺近郊から抵抗性アカマツが誕生ー、森林・林業交流研究発表集録(平成30年度)、157-160、2019.03.
 9. 玉城聡・辻山善洋・湯浅真・井城泰一・織部雄一朗・長谷部辰高(林野庁)・竹田宣明、東北育種基本区におけるスギ特定母樹の選定・指定ー平成28年度および29年度の取組ー、林木育種センター年報(平成30年版)、103-105、2019.03.
 10. 山田浩雄・磯田圭哉・近藤禎二(森林総研非常勤職員)・大塚次郎・山口秀太郎・生方正俊、コウヨウザンの優良クローンの選抜、林木育種センター年報(平成30年版)、122-125、2019.03.
 11. 久保田正裕・篠崎夕子・三浦真弘・笹島芳信・河合貴之・林田修・屋森修一(近畿中国森林管理局)・加藤智子・柏木学、関西育種基本区におけるスギ第2世代精英樹候補木の選抜ー西山大32号、スギ検定林50号における実行結果ー、林木育種センター年報(平成30年版)、109-111、2019.03.

023 変異(系統分類、倍数体を含む)

1. 小長谷賢一、林木育種の新技术、林業いばらき、729:9、2018.04.
2. MISHIMA Kentaro(三嶋賢太郎)・HIRAO Tomonori(平尾知士)・TSUBOMURA Miyoko(坪村美代子)・TAMURA Miho(田村美帆・九州大学)・KURITA Manabu(栗田学)・NOSE Mine(能勢美峰)・HANAOKA So(花岡創)・TAKAHASHI Makoto(高橋誠)・WATANABE Atsushi(渡辺敦史・九州大学)、Identification of novel putative causative genes and genetic marker for male sterility in Japanese cedar (*Cryptomeria japonica* D. Don)(スギにおける新規無花粉原因遺伝子の同定と無花粉形質に関するマーカーの開発)、BMC genomics、19:277、2018.04.
3. FUKATSU Eitaro(武津英太郎)・NAKADA Ryogo(中田了五)、The timing of latewood formation determines the genetic variation of wood density in *Larix kaempferi*(晩材形成の時期がカラマツにおける材密度の遺伝的変異に与える影響)、Trees-Structure and Function、32(5):1233-1245、2018.05.
4. MASUDA Hiroshi(増田寛志・石川県立大学)・May Sann Aung(メイサン アウン・石川県立大学)・MAEDA Keisuke(前田慶介・石川県立大学)・KOBAYASHI Takanori(小林高範・石川県立大学)・TAKATA Naoki(高田直樹)・TANIGUCHI Toru(谷口亨)・NISHIZAWA K. Naoko(西澤直子・石川県立大学)、Iron-deficiency response and expression of genes related to iron homeostasis in poplars.(ポプラの鉄欠乏応答と鉄ホメオスタシス関連遺伝子の発現解析)、Soil Science and Plant Nutrition、64(5):576-588、2018.06.

5. 七里吉彦・三上雅史(横浜市大、農研機構)・大宮泰徳・二村典宏(元森林総研職員)・遠藤真咲(農研機構)・西口満・高田直樹・小長谷賢一・谷口亨、CRISPR/Cas9 を利用したスギのゲノム編集ー再生個体のモザイク性と内在性遺伝子のゲノム編集、日本ゲノム編集学会大会要旨集、3:93、2018.06.
6. 高田直樹・栗野達也(京都大学)・佐野雄三(北海道大学)・中田未友希(産業技術総合研究所)・坂本真吾(産業技術総合研究所)・光田展隆(産業技術総合研究所)・谷口亨、NST/SND-independent secondary cell wall formation in wood fibers in the vicinity of vessel element in poplar. (ポプラ木繊維の NST/SND 非依存的な二次壁形成)、International Symposium on Forest Tree Molecular Biology and Biotechnology 2018、Poster Presentation for Session I. Cell-type and wood formation、2018.07.
7. 福田陽子、アオダモの地理変異の研究、林木育種情報、28:5、2018.07.
8. 増田寛志(石川県立大学)・メイサン アウン(石川県立大学)・前田慶介(石川県立大学)・小林高範(石川県立大学)・高田直樹・谷口亨・西澤直子(石川県立大学)、日本土壌肥料学会大会講演要旨集、64:4-2-1、2018.08.
9. 前田慶介(石川県立大学)・増田寛志(石川県立大学)・メイサン アウン(石川県立大学)・高田直樹・谷口亨・西澤直子(石川県立大学)・小林高範(石川県立大学)、ポプラの鉄欠乏耐性検定、日本植物細胞分子生物学会大会講演要旨集、36:3C-03、2018.08.
10. YAMAMOTO Masanobu(山本雅信・東京農工大学)・Nuoendagula(諾恩達古拉・東京農工大学)・TAKATA Naoki(高田直樹)・IKEDA Tsutomu(池田努)・TOMIYAMA Hirokazu(富山浩和・農業・食品産業技術総合研究機構)・KOYAMA Akio(小山朗夫・農業生物資源研究所)・OKUIZUMI Hisato(奥泉久人・農業・食品産業技術総合研究機構)・UESUGI Mikiko(上杉幹子・東京農工大学)・John Ralph(ジョン ラルフ・ウィスコンシン大学)・KAJITA Shinya(梶田真也・東京農工大学)、SEKIZAISOU, the earliest discovered lignin mutant. (赤材桑：最古のリグニン変異体)、Lignin, Gordon Research Conference、38、2018.08.
11. 七里吉彦・三上雅史(横浜市大、農研機構)・大宮泰徳・二村典宏(元森林総研職員)・遠藤真咲(農研機構)・西口満・高田直樹・小長谷賢一・谷口亨、スギ(*Cryptomeria japonica* D. Don)におけるゲノム編集系の構築と再生個体のモザイク性の解析日本植物細胞分子生物学会(金沢)大会講演要旨集、36:168、2018.08.
12. NANASATO Yoshihiko(七里吉彦)・UENOYAMA Ryo(上野山遼・鳥取大学)・TOMOOKA Kaede(友岡楓・鳥取大学)・KATO Atsushi(加藤敦司・鳥取大学)・AKASHI Kinya(明石欣也・鳥取大学)、Nuclear isolation and purification using SDS/urea (NIPSU) method for efficient and rapid extraction of high-purity genomic DNAs from *Jatropha curcas* L: A comparative analysis of DNA isolation protocols(ジャトロファにおけるNIPSU法を用いた効率的な高純度ゲノム DNA 抽出法：DNA 単離プロトコールの比較解析)、African Journal of Biotechnology、17(32):981-988、2018.08.
13. TORIMARU Takeshi(鳥丸猛・三重大)・SUZUKI Sei(鈴木正)・MATSUSHITA Michinari(松下通也)・MATSUYAMA Nobuhiko(松山信彦・弘前大)・AKADA Shinji(赤田辰治・弘前大)、Effects of soil properties and clonal growth on the apparent sex ratio of the flowering stems of the dioecious clonal shrub *Aucuba japonica* var. *borealis* growing in an evergreen coniferous secondary forest. (常緑針葉樹林におけるクローン樹木の開花に対する土壌条件とクローン成長の影響)、Acta Oecologica、91:91-100、2018.08.
14. HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎)・FUKATSU Eitaro(武津英太郎)・MISHIMA Kentaro(三嶋賢太郎)・HIRAO Tomonori(平尾知士)・TESHIMA M. Kosuke(手島康介・九州大学)・TAMURA Miho(田村美帆・九州大学)・TSUBOMURA Miyoko(坪村美代子)・IKI Taiichi(井城泰一)・KURITA Manabu(栗田学)・TAKAHASHI Makoto(高橋誠)・WATANABE Atsushi(渡辺敦史・九州大学)、Potential of genome-wide studies in unrelated plus trees of a coniferous species,

- Cryptomeria japonica* (Japanese cedar) (スギ精英樹におけるゲノムワイド研究の可能性)、Frontiers in Plant Science、9:1322、P20、2018.09.
15. OSAKO Yuki(大迫侑貴・東京農工大学)・TAKATA Naoki(高田直樹)・Nuoendagula(諾恩達古拉・東京農工大学)・ISHIKAWA Shinnosuke(石川慎之祐・東京農工大学)・UMEZAWA Taishi(梅澤泰史・東京農工大学)・TANIGUCHI Toru(谷口亨)・KAJITA Shinya(梶田真也・東京農工大学)、Expression analysis of cellulose synthases that comprise the Type II complex in hybrid aspen. (ポプラの TypeII セルロース合成酵素遺伝子の発現解析)、Plant Biology、DOI: 10.1111/plb.12921、2018.10.
 16. 高田直樹、栗野達也(京都大学)、中田未友希(産業技術総合研究所)、佐野雄三(北海道大学)、坂本真吾(産業技術総合研究所)、光田展隆(産業技術総合研究所)、谷口亨、ポプラ NST 四重変異体の組織構造、植物細胞壁研究者ネットワーク定例研究会(2018)、12:35(Session 8-10)、2018.10.
 17. NAKABA Satoshi(半智史・東京農工大学)・ARAKAWA Izumi(荒川泉・東京農工大学)・MORIMOTO Hikaru(森本光・東京農工大学)・YAMAGISHI Yusuke(山岸祐介・北海道大学)・NAKADA Ryogo(中田了五)・BITO Nobumasa(尾頭信昌・名古屋大学)・IMAI Takanori(今井貴規・名古屋大学)・FUNADA Ryo(船田良・東京農工大学)、Cytological Changes in Ray Parenchyma Cells during Artificially Induced Cell Death in *Cryptomeria japonica* (スギにおける人工誘導細胞死での放射柔細胞の細胞学的変化)、Proceedings of the Society of Wood Science and Technology/Japan Wood Research Society International Convention(2018)、2018.11.
 18. 那布其(東京農工大学)・諾恩達古拉(東京農工大学)・呉色吉日胡(東京農工大学)・山本雅信(東京農工大学)・エドワード ペスケ(Stockholm University)・高田直樹・谷口亨・坂本真吾(産業技術総合研究所)・光田展隆(産業技術総合研究所)・梶田真也(東京農工大学)、二次壁肥厚を促進するイネ転写因子 OsNST2 を過剰発現する CAD 発現抑制ポプラの解析、リグニン討論会講演要旨集、63:P44、2018.11.
 19. 石塚航(北海道立総合研究機構林業試験場)・田畑あずさ(北海道大学低温科学研究所)・小野清美(北海道大学低温科学研究所)・福田陽子・原登志彦(北海道大学低温科学研究所)、オルガネラゲノム情報を用いた *Larix* の交配樹種・系統判別、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:10、2018.11.
 20. 永野聡一郎・平岡裕一郎・平尾知士・三嶋賢太郎・井城泰一・高島有哉・石栗太(宇都宮大学)・高橋誠、マルチプレックス SNP タイピングシステムを用いたスギ精英樹 F1 集団の遺伝子型同定と形質予測モデルの構築、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:P11、2018.11.
 21. 能勢美峰・高島有哉・永野聡一郎・平尾知士、遺伝子発現レベルからみたスギの乾燥ストレス応答のクローン間差、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:15、2018.11.
 22. MISHIMA Kentaro(三嶋賢太郎)・HIRAKAWA Hideki(平川英樹・かずさ DNA 研究所)・IKI Taiichi(井城泰一)・FUKUDA Yoko(福田陽子)・HIRAO Tomonori (平尾知士)・KURITA Manabu(栗田学)・TAMURA Akira(田村明)・TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、Full-length cDNA isoform collection from Japanese larch (*Larix kaempferi*) and Kurile larch (*Larix gmelinii* var. *japonica*) and the interspecies comparison. (カラマツとグイマツの完全長 cDNA アイソフォームの収集と比較)、Plant and Animal Genome Conference、27:P00533、2019.01.
 23. 三嶋賢太郎、成長の優れた無花粉スギ品種の早期開発のためのマーカー支援選抜(MAS)の事業化、林木育種情報、29:2、2019.01.
 24. 平尾知士、林木におけるゲノム育種に向けた次世代シーケンサーの活用、森林遺伝育種、8(1):27-31、2019.01.
 25. TAKATA Naoki(高田直樹)、CRISPR/Cas9 approaches to understand secondary cell wall formation in wood fibers in poplar. (CRISPR/Cas9 システムを利用したポプラ木部繊維の二次壁形成機構へのアプローチ)、Bioengineering of Lignocellulose for Clean Energy

Production: Perspectives and Opportunities, 9:35-10:10, 2019. 02.

26. 永野聡一郎・平岡裕一郎・平尾知士・三嶋賢太郎・井城泰一・高島有哉・石栗太(宇都宮大学)・高橋誠、スギ精英樹交配家系における成長および材質関連形質のゲノミック予測モデル、日本森林学会大会学術講演集、130:265、2019. 03.
27. 三嶋賢太郎・平尾知士・坪村美代子・田村美帆(九州大学)・栗田学・能勢美峰・花岡創・大平峰子・平岡裕一郎・倉本哲嗣・高橋誠・星比呂志・渡辺敦史(九州大学)、スギにおける無花粉形質に関するマーカーの開発とそれを活用した育種素材の選抜、日本育種学会講演会要旨集、135:P026、2019. 03.
28. 能勢美峰・高島有哉・永野聡一郎・松下通也・平岡裕一郎・平尾知士、遺伝子発現プロファイルからみたスギの乾燥応答の種内変異、日本育種学会講演会要旨集、135:P071、2019. 03.
29. 平岡裕一郎・江藤信輔(電気通信大学)・松下通也、高橋誠・増田宏(電気通信大学)、3次元点群を用いたスギの葉群形質の評価、日本森林学会大会学術講演集、130:P2-117、2019. 03.
30. TAKATA Naoki(高田直樹)・AWANO Tatsuya(栗野達也・京都大学)・NAKATA T. Miyuki(中田未友希・産業技術総合研究所)・SANO Yuzou(佐野雄三・北海道大学)・SAKAMOTO Shingo(坂本真吾・産業技術総合研究所)・MITSUDA Nobutaka(光田展隆・産業技術総合研究所)・TANIGUCHI Toru(谷口亨)、Populus NST/SND orthologues are key regulators of secondary cell wall formation in wood fibers, phloem fibers and xylem ray parenchyma cells. (ポプラのNST/SND オルソログは木繊維、師部繊維、木部放射柔細胞の二次壁形成のマスター制御因子である)、Tree Physiology、DOI:10.1093/treephys/tpz004、2019. 03.
31. 高田直樹・堀千明(北海道大学)・松本謙一郎(北海道大学)・ラム イン プイ(京都大学)・飛松裕基(京都大学)・永野聡一郎、R3 MYB 遺伝子の過剰発現によるポプラ木質の酵素糖化性の改良、日本植物生理学会大会講演要旨集、60:2aC06、2019. 03.
32. TAKATA Naoki(高田直樹)、Wood formation and engineering in poplar. (ポプラにおける木部の形成と改変)、JST-ALCA the 2nd Symposium of Plant Cell Wall Engineering -Toward Low Carbon Society-、11:35-12:00、2019. 03.

03 樹種、品種の選択と植栽試験

031 次代検定(育種効果を含む)

1. 宮下久哉・加藤一隆、関東育種基本区において実施したスギカミキリ抵抗性育種事業における二次検定の結果、応用森林学会大会研究発表要旨集、69:16、2018. 10.
2. 加藤一隆・山野邊太郎・大平峰子、エリートツリーの性能評価試験ー下刈り回数低減の可能性ー、関東森林学会大会講演要旨集、8:20、2018. 10.
3. 武津英太郎・松永孝治・倉原雄二・栗田学・久保田正裕、次代検定・クローン検定における植栽時苗高の影響、九州森林学会大会研究発表プログラム、74:48、2018. 10.
4. 加藤一隆・山野邊太郎・大平峰子、エリートツリーの性能評価試験ーコンテナ苗植栽4年後及び裸苗植栽3年後における樹高に関する家系間の相関についてー、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:6、2018. 11.
5. FUKATSU Eitaro(武津英太郎)・HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎)・KURAMOTO Noritsugu(倉本哲嗣)・YAMADA Hiroo(山田浩雄)・TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、Effectiveness of spatial analysis in Cryptomeria japonica D. Don (sugi) forward selection revealed by validation using progeny and clonal tests(後代検定およびクローン検定によるスギにおける前方選抜時の空間解析の有効性)、Annals of Forest Science、75(4):96、<https://doi.org/10.1007/s13595-018-0771-1>、2018. 11.
6. 武津英太郎・平岡裕一郎・栗田学・米康充(島根大学学術研究院農生命科学系)、UAV による若齢スギ個体の樹高計測の推定誤差の検討、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:17、2018. 11.

7. 花岡創・中田了五、FAKOPP および Pilodyn を用いたアカエゾマツの材質測定手法の検討、北方森林学会大会研究発表要旨、67:P-08、2018. 11.
8. 花岡創・中田了五、FAKOPP および Pilodyn を用いたアカエゾマツの材質測定手法の検討、北方森林研究、67:19-22、2019. 02.
9. 江藤信輔(電気通信大学)・増田宏(電気通信大学)・平岡裕一郎・松下通也・高橋誠、TLS を用いた樹木の形質調査のための形状処理手法、日本森林学会大会学術講演集、130:D8、2019. 03.

033 産地試験

1. 小長谷賢一、遺伝子組換えスギの隔離ほ場栽培試験の成果、林木育種情報、28:5、2018. 07.
2. 小長谷賢一・高田直樹・七里吉彦・谷口亨、遺伝子組換え雄性不稔スギの隔離ほ場栽培における不稔性と成長評価、日本植物細胞分子生物学会(金沢)大会講演要旨集、36:103、2018. 08.
3. 高島有哉・大平峰子・山野邊太郎・坪村美代子・松下通也・平岡裕一郎・加藤一隆・鴨志田宏二(関東森林管理局)、さし木試験におけるスギ第2世代精英樹候補木の4生育期間の成長特性、関東森林学会大会講演要旨集、8:33、2018. 10.
4. 生野柁大(鹿大院)・藤澤義武(鹿大院)・武津英太郎、低密度植栽による未成熟材部の量的変化とそれが晩材仮道管長、容積密度へ与える影響、日本木材学会九州支部大会、25:II6、2018. 11.
5. 平岡裕一郎・三浦真弘・武津英太郎・栗田学・久保田正裕・井城泰一・山野邊太郎・磯田圭哉・高橋誠、全国の実生検定林データに基づくスギの遺伝パラメータの年次変化と選抜効果の推定、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:23、2018. 11.
6. 高島有哉・山野邊太郎・加藤一隆、茨城県に設定した植栽密度試験地における20年生スギの成長解析、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:41、2018. 11.
7. 三浦真弘・牧本卓史(岡山県森林研)・中岡圭一(愛媛県林研セ)・木村光男(愛媛県林研セ)・上杉基(宮崎県林技セ)・武津英太郎・栗田学・久保田正裕・倉本哲嗣・平岡裕一郎・高橋誠・星比呂志、気候が異なる西南日本の3地域におけるスギ精英樹の初期成長、日本森林学会発表講演要旨集、130:P2-125、2019. 03.

04 採種園、結実促進、その他有性繁殖

041 採種園関係

1. 河合慶恵、効率的な人工交配作業を目指して一交配袋の検討一、関西育種場だより、86:2、2018. 07.
2. 猿田けい(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・山田晋也(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・山本茂弘(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・山口亮(静岡県庁研究開発課)・石川佳寛(静岡県西部農林事務所)・大平峰子・平岡裕一郎・山野邊太郎・高橋誠、ビニールハウス内に造成したスギ採種園における母樹育成方法の検討、中部森林学会大会プログラム・講演要旨集、8:103、2018. 10.
3. 三浦真弘・河合貴之・笹島芳信、採種年、採種場所の違いがエリートツリーコンテナ苗の成長に及ぼす影響、応用森林学会大会研究発表要旨集、69:5、2018. 11.
4. 山本茂弘(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・山田晋也(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・猿田けい(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・山口亮(静岡県庁研究開発課)・石川佳寛(静岡県西部農林事務所)・大平峰子・平岡裕一郎・山野邊太郎・高橋誠、根域制限栽培法を用いたスギ採種園母樹の育成条件の検討、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:P8、2018. 11.
5. 山田晋也(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・山本茂弘(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・猿田けい(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・山口

- 亮(静岡県庁研究開発課)・石川佳寛(静岡県西部農林事務所)・大平峰子・平岡裕一郎・山野
 遼太郎・高橋誠、ビニールハウス内に造成したスギ採種園の温度管理の検討、森林遺伝育種
 学会大会講演要旨集、7:P9、2018. 11.
6. 岩泉正和・三浦真弘・今野敏彦・飯田啓達・大久保典久・片桐智之(岡山県農林水産総合セン
 ター森林研究所)・田中英夫(岡山県農林水産総合センター森林研究所)・大池航史(山口県農
 林総合技術センター林業技術部)・杉本博之(山口県岩国農林事務所)、抵抗性アカマツ採種園
 種苗の性能：抵抗性ランク、系統配置、園齡による違い、日本森林学会大会学術講演集、
 130:P2-135、2019. 03.

042 着花促進、種子生産性等

1. 松下通也、カラマツ属における光環境の改善による着花促進、カラマツ育種技術連絡会 2018、
 4、2018. 08.
2. 坪村美代子、スギにおける雄花着花性の遺伝性と雄花形態形成に関する研究、森林遺伝育種、
 7:66-70、2018. 04.
3. 田村明、着花促進技術の紹介、カラマツ育種技術連絡会情報交換会資料、3、2018. 08.
4. 清水香代(長野県林業総合センター)・田村明・田中功二(青森県産業技術センター)、カラマ
 ツ採種作業の機械化による効率化の検討、中部森林学会大会プログラム・講演要旨集、8:15、
 2018. 10.
5. 栗田学・武津英太郎・倉原雄二・佐藤省治・大塚次郎・竹田宣明・松永孝治・倉本哲嗣・久
 保田正裕、九州育種基本区におけるスギ第一世代精英樹のジベレリン着花特性について、九
 州森林学会大会研究発表プログラム、74:49、2018. 10.
6. 三嶋賢太郎・田村明・栗田学・松下通也・高島有哉・井城泰一・高橋誠、異なる光強度下で
 生育したカラマツの着花と遺伝子発現量解析、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:P14、
 2018. 11.
7. 田中功二(青森県産業技術センター)・松下通也・田村明、採種園に補植したカラマツ若齡接
 ぎ木苗の着花特性、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:6、2018. 11.
8. 松下通也、環状剥皮と受光伐処理の相乗効果、地域戦略プロジェクト成果発表会「カラマツ
 種苗の安定的生産に向けた技術開発」、3、2019. 02.
9. 田村明、全体概要、地域戦略プロジェクト成果発表会「カラマツ種苗の安定的生産に向けた
 技術開発」要旨集、1、2019. 02.
10. 稲永路子・磯田圭哉・山田浩雄・山口秀太郎・増山真美・生方正俊、ジベレリン処理による
 コウヨウザンの着花促進の試み、日本森林学会大会学術講演集、130:P2-129、2019. 03.
11. 生方正俊・田村明・高橋誠・来田和人(北海道立総合研究機構)・対馬俊之(北海道立総合研究
 機構)・今博計(北海道立総合研究機構)・田中功二(青森県産業技術センター)・蓬田英俊(岩
 手県林業技術センター)・中村博一(群馬県林業試験場)・清水香代(長野県林業総合センター)・
 西川浩己(山梨県森林総合研究所)・矢野慶介・井城泰一、カラマツ種子の最適な採取時期、
 日本森林学会大会学術講演集、130:P2-128、2019. 03.
12. 生方正俊・福山友博・植田守・高橋誠、カラマツ種子の成熟時期の標高間差の年次変動、日
 本生態学会大会講演要旨集、66:P3-047、2019. 03.
13. 玉城聡・辻山善洋・田村明、処理時期と強度を変えたスコアリング処理がカラマツの花芽着
 生に及ぼす影響、日本森林学会大会学術講演集、130:P2-130、2019. 03.
14. 西川浩己(山梨県森林総研)・神戸陽一(山梨県森林総研)・小林正男(山梨県森林総研)・羽田
 直美(山梨県森林総研)・三浦充(山梨県森林総研)・渡辺真紀子(山梨県森林総研)・松下通也、
 田村明、環状剥皮したカラマツ採種木の着果促進効果の継続性について、日本森林学会大会
 学術講演集、130:P2-132、2019. 03.
15. 栗田学・武津英太郎・倉原雄二・佐藤省治・大塚次郎・竹田宣明・松永孝治・倉本哲嗣・加

- 藤一隆・久保田正裕、九州育種基本区におけるスギ精英樹のジベレリン着花特性、日本森林学会大会学術講演集、130:260、2019. 03.
16. 井城泰一、グルタチオンを用いたカラマツコンテナ苗の育成、岩手の林業、736:8、2019. 03.
 17. 西川浩己(山梨県森林総研)・松下通也、光環境の改善、カラマツ種苗安定供給のための技術開発、3、2019. 03.
 18. 坪村美代子・三嶋賢太郎・平尾知士・永野聡一郎・平川英樹(かずさ DNA 研究所)、雄花着花量の異なるスギクロンのジベレリン処理後の遺伝子発現解析、日本森林学会大会学術講演集、130:261、2019. 03.
 19. 福田陽子・花岡創・原山尚徳・矢野慶介・田村明、長日処理によるカラマツの着花促進効果と実用化に向けた課題、日本森林学会大会学術講演集、130:263、2019. 03.
 20. 那須仁弥・宮本尚子、東北産アカマツ精英樹の発芽パターンに対して種子採取年の気象は影響するか、東北森林科学学会大会講演要旨集、23:18、2019. 03.

05 採穂園、その他無性繁殖

051 さし木、つぎ木、発根性等

1. 千吉良治・古本良・松下通也・楠城時彦、鉢上げ後1年経過したフクギさし木苗の生長量の系統間差、亜熱帯森林・林業研究会研究発表論文集(平成30年度)、:13、2018. 08.
2. FUKUDA Yuki(福田有樹)・HIRAO Tomonori(平尾知士)・MISHIMA Kentaro(三嶋賢太郎)・OHIRA Mineko(大平峰子)・HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎)・TAKAHASHI Makoto(高橋誠)・WATANABE Atsushi(渡辺敦史・九州大学)、Transcriptome dynamics of rooting zone and aboveground parts of cuttings during adventitious root formation in *Cryptomeria japonica* D. Don(スギの不定根形成における発根部及び地上部のトランスクリプトームダイナミクス)、BMC Plant Biology、18:201、2018. 09.
3. 生方正俊・植田守・福山友博・弓野奨・久保田権・藤原優理・高橋誠、ドロノキのさし木活着率のクローン間変異、関東森林学会大会講演要旨集、8:22、2018. 10.
4. 尾上竜一(九大院)・栗田学・吉村和也(九大院)・田村美帆(九大院)・渡辺敦史(九大院)、水耕栽培を利用して発根誘導したスギ挿し穂の土壌植栽後の成長量と根系の変化、九州森林学会大会研究発表プログラム、74:48、2018. 10.
5. 吉村知也(九大院)・栗田学・尾上竜一(九大院)・渡辺敦史(九大院)、光・温度環境がスギ挿し木発根に与える影響、九州森林学会大会研究発表プログラム、74:48、2018. 10.
6. 古里和輝(宮大農)・徳田楓(宮大農)・伊藤哲(宮大農)・平田令子(宮大農)・栗田学・長倉良守(長倉樹苗園)、空中挿し木法を用いたスギコンテナ苗育成の試行、九州森林学会大会研究発表プログラム、74:39、2018. 10.
7. NANJO Tokihiko(楠城時彦)・FURUMOTO Ryo(古本良)・ORIBE Shunji(織邊俊爾)・CHIGIRA Osamu(千吉良治)・MATSUSHITA Michinari(松下通也)・NAKAZATO Nagahiro(仲里長浩・和歌山県立有田中央高校)、フクギさし木の発根性に影響を及ぼす諸要因の検討、九州森林学会大会研究発表プログラム、74:402、2018. 10.
8. 福田有樹・平岡裕一郎・大平峰子・高橋誠・井城泰一・三浦真弘・栗田学・渡辺敦史(九州大学)、スギさし木苗における根系形質に関する遺伝的特性評価、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:17、2018. 11.
9. 吉村知也(九大院)・栗田学・尾上竜一(九大院)・田村美帆(九大院)・渡辺敦史(九大院)、光環境はスギ挿し木発根にどのように影響するか?、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:22、2018. 11.
10. 井城泰一・小川健一(岡山県農林水産総合センター生物科学研究所)・今博計(北海道立総合研究機構林業試験場)・田村明、グルタチオンを用いたカラマツさし木増殖技術の開発、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:26、2018. 11.

11. 福田有樹・平岡裕一郎・大平峰子・高橋誠・井城泰一・三浦真弘・栗田学・渡辺敦史(九州大学)、スギ精英樹のさし木苗における根系形質の遺伝的変異および地上部初期成長との関連性、日本森林学会誌、100(6):218-223、2018. 12.
12. 福田有樹・平岡裕一郎・三嶋賢太郎・平尾知士・大平峰子・井城泰一・三浦真弘・栗田学・渡辺敦史(九州大学)、スギさし木苗における根系形質に関するゲノムワイド関連解析、日本森林学会大会学術講演集、130:P2-144、2019. 03.
13. 千吉良治・松下通也・楠城時彦・古本良、鉢上げ後1年が経過したフクギさし木苗の形状の系統間差および実生苗の形状との比較、亜熱帯森林・林業研究会研究発表論文集(平成30年度)、29-34、2019. 03.
14. 徳田楓(宮大農)・伊藤哲(宮大農)・平田令子(宮大農)・長倉良守(長倉樹苗園)・栗田学・古里和輝(宮大農)、スギ挿し木苗の根切りがコンテナ移植時の作業効率と根系発達に及ぼす影響、日本森林学会大会学術講演集、130:124、2019. 03.
15. 本田あかり(九大農)・栗田学・太田宗太郎(九大院)・酒本大(九大院)・田村美帆(九大院)・渡辺敦史(九大院)、低温貯蔵はスギ挿し木発根の向上に有効か?、日本森林学会大会学術講演集、130:270、2019. 03.
16. 大平峰子、人工育苗装置を利用したスギさし木苗増殖技術の開発、林木育種情報、30:4、2019. 03.

052 組織培養

1. 秋山佳貴(東京農工大学)・山岸祐介(北海道大学)・中田了五・半智史(東京農工大学)・船田良(東京農工大学)、トドマツ成熟種子由来の不定胚形成細胞(ESM)経由の植物体再生系の確立、日本木材学会大会研究発表要旨集、69:A15-P-37、2019. 03.

06 育苗、その他形質記録

061 育苗

1. 山口秀太郎・岩井大岳・福山友之・弓野奨・磯田圭哉・稲永路子・近藤禎二(森林総研非常勤職員)・生方正俊・松下通也、コウヨウザン苗木における育苗環境の影響について、関東森林学会大会講演要旨集、8:21
2. 大平峰子、播種時期の異なるスギ実生コンテナ苗の成長推移の比較、関東森林学会大会講演要旨集、8:21、2018. 10.
3. 三浦真弘、関西育種場におけるスギのコンテナ苗育苗技術の開発について、関西育種場たより、87:2、2018. 11.
4. 岩泉正和・今野敏彦・飯田啓達・河合慶恵・三浦真弘・那須仁弥・磯田圭哉、アカマツ広域産地試験の岡山および高知における苗畑での2年生苗の成長特性、日本生態学会大会講演要旨集、66:K02-03、2019. 03.
5. 袴田哲司(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・山本茂弘(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)・平岡裕一郎・三浦真弘・加藤一隆、スギコンテナ苗の植栽時のサイズと初期成長の関係、日本森林学会大会学術講演集、130:P2-071、2019. 03.
6. 大平峰子、CO₂ 施用と気温がスギ・ヒノキ苗木の成長に及ぼす影響、日本森林学会大会学術講演集、130:258、2019. 03.

07 樹木園、緑化樹及び広葉樹の育種

072 広葉樹の育種

1. 福田陽子、国産材バットを未来にーアオダモの資源保全に向けた取り組みー、北の国・森林づくり技術交流発表集(平成29年度)、176-180、2018. 07.
2. 福田陽子、北海道育種場におけるアオダモ育種の取り組み、北海道の林木育種、61(1):333-

- 348、2018. 08.
3. 谷口亨、薬用のつる性樹木「カギカズラ」の増殖と栽培方法の開発について、JATAFF ジャーナル、6(12):46、2018. 12.
 4. 谷口亨、薬用樹木の生産効率化手法の開発のための取り組みーキハダ、カギカズラ、ワダツミノキー、北海道の林木育種、61(2):22-26、2018. 12.
 5. TOKUMOTO Yuji(徳本雄史:名古屋大)・MATSUSHITA Michinari(松下通也)・KISHIMOTO-YAMADA Keiko(岸本圭子・新潟大)・NIKKESHI Aoi(日下石碧・筑波大)・ISOGIMI Tomohiro(五十君友宏・名古屋大)・NAKAGAWA Michiko(中川弥智子・名古屋大)、Floral visitors and reproductive success in two sequentially flowering *Lindera* shrubs (Lauraceae) of central Japan. (中部日本における *Lindera* 属樹木 2 種の繁殖成功)、Journal of Forest Research、24(1):42-51、2019. 01.
 6. 矢野慶介、繰り返し萌芽再生したヤナギ属 2 樹種におけるバイオマス生産量、日本森林学会大会学術講演集、130:P2-090、2019. 03.

08 森林保護技術と被害様式

082 病虫害抵抗性育種(昆虫害、病害等)

1. 織部雄一郎、東北における抵抗性クロマツの安定供給システム、グリーン・エージ、45(6):11-14、2018. 06.
2. 松永孝治・高橋誠、マツノザイセンチュウ抵抗性マツの作出と利用について、山林、1610:24-30、2018. 07.
3. 松永孝治・渡辺敦史(九州大学)、林野庁委託事業「マツノザイセンチュウ抵抗性品種開発技術高度化事業」の成果の概要ーマツノザイセンチュウの特性評価とより強い第二世代抵抗性品種開発ー、森林遺伝育種、7(3):115-119、2018. 07.
4. 平尾知士・山野邊太郎・大平峰子・高橋誠・星比呂志・井城泰一・岩泉正和・三浦正弘・松永孝治・渡辺敦史(九州大学)、より強いマツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発、森林総合研究所研究成果選集(平成 30 年版)、42-43、2018. 07.
5. 松永孝治、より強い第 2 世代マツノザイセンチュウ抵抗性品種開発の取り組み、九州育種場だより、37:4-5、2018. 08.
6. 織部雄一郎・田中功二(青森県産業技術センター林業研究所)・宮本尚子・山野邊太郎・今野幸則(宮城県林業技術総合センター)・大西昇(キリン(株))・丸山毅・川上鉄也(福島県林業研究センター)・小澤創(福島県林業研究センター)・太田清蔵(宮城県農林種苗農業協同組合)、海岸防災林再生現場への抵抗性クロマツ苗木の安定供給に向けた技術開発と普及、水利科学、62(3):97-107、2018. 08.
7. 松永孝治、より強い第 2 世代マツノザイセンチュウ抵抗性品種開発の取り組み、森林総合研究所公開講演会(九州地域)、3、2018. 10.
8. 大平峰子、茨城県内からのマツノザイセンチュウ抵抗性品種の選抜、林業いばらき、735:9、2018. 10.
9. 山野邊太郎、野外でのマツノザイセンチュウ接種において接種後の降雨が影響するタイミング、関東森林研究、69(2):131-134、2018. 11.
10. MATSUNAGA Koji(松永孝治)・AKIBA Mitsuteru(秋庭満輝)・KANZAKI Natsumi(神崎菜摘)・TOGASHI Katsumi(富樫一巳・東京大学農学部)、A simple method for distinguishing *Bursaphelenchus xylophilus*, *B. mucronatus mucronatus*, and *B. m. kolymensis* (Nematoda: Aphelenchoididae) by polymerase chain reaction with specific primers designed based on cytochrome oxidase subunit I genes(チトクロムオキシダーゼサブユニット I 遺伝子に基づく特異的プライマーを用いたポリメラーゼ連鎖反応によるマツノザイセンチュウとニセマツノザイセンチュウ 2 亜種(線形動物門:アフェレンコイデス科)の簡易識別法)、Applied

Entomology and Zoology, 54:147-153, 2019. 02.

11. 玉城雅範(沖森研セ)・松永孝治・栗田学・倉本哲嗣・渡辺敦史、リュウキュウマツにおける線虫接種適期の検討、九州森林研究、99:102、2019. 03.
12. 平尾知士・松永孝治・永野聡一郎、クロマツにおけるマツノザイセンチュウ抵抗性に関するQTL 解析、日本育種学会講演会、135:157、2019. 03.
13. 平尾知士・松永孝治・永野聡一郎、クロマツにおけるマツ材線虫病抵抗性に関する遺伝解析、日本森林学会大会学術講演集、130:266、2019. 03.
14. 松永孝治・栗田学・武津英太郎・平尾知士・久保田正裕、マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ交配園における花フェノロジーの解析、日本森林学会大会学術講演集、130:265、2019. 03.
15. 山口莉未(九州大)・松永孝治・田村美帆(九州大)・渡辺敦史(九州大)、マツ材線虫病における宿主一病原体トランスクリプトーム同時解析、日本森林学会大会学術講演集、130:167、2019. 03.

09 育種材料の特性

091 総合特性(成長、形態等)

1. INANAGA Michiko(稲永路子)・TAKATA Katsuhiko(高田克彦・秋田県立大学木材高度加工研究所)、RNA-seq analysis and de novo transcriptome assembly for detecting cold acclimation related genes in *Thuja plicata* var. *Hondae*(ヒノキアスナロにおける低温順化関連遺伝子を検出するためのRNA-seq 分析と de novo トランスクリプトームアセンブリ)、Plant Dormancy Symposium Abstract and Program Book、6:103、2018. 10.
2. 河合慶恵・五十嵐秀一(愛媛大院・連合農)・池田武文(京都府立大院)、異なる灌水条件下で育成したスギ精英樹における冬季の水分生理、応用森林学会大会研究発表要旨集、69:14、2018. 11.
3. 花岡創・伊東宏樹、アカエゾマツの根元曲がりと幹曲がりが生じる確率に対する環境および遺伝的効果、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:12、2018. 11.
4. 高橋優介(宇都宮大学農学部)・石栗太(宇都宮大学農学部)・大島潤一(宇都宮大学農学部)・横田信三(宇都宮大学農学部)・高島有哉・平岡裕一郎・井城泰一・宮下久哉、36 年生カラマツ(*Larix kaempferi*)人工交配家系における曲げ物性の半径方向変動とその家系間変異、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:32、2018. 11.
5. 宮下久哉・高島有哉・平岡裕一郎・加藤一隆、関東育種基本区において開発した幹重量の大きいヒノキ品種の遺伝獲得量、関東森林研究、69(2):143-146、2018. 11.
6. 中田了五、樹幹の半径成長と圧ポテンシャルの同時計測のための新しいデンドロメーター、樹木年輪研究会つくば プログラム・要旨集(2018)、8、2018. 12.
7. 河合慶恵・笹島芳信・柏木学・加藤智子・河合貴之・篠崎夕子・竹原正人・西川彰・林田修・三浦真弘・久保田正裕・五十嵐秀一(愛媛大院・連合農)・市栄智明(高知大農)、日本森林学会大会学術講演集、130:P2-118、2019. 03.
8. 池田武文(京都府大院)・中川拓真(京都府大院)・河合慶恵・三浦真弘・久保田正裕・笹島芳信・林田修、スギ精英樹の水ストレスに対する水分生理特性の系統間差異、日本森林学会大会学術講演集、130:F7、2019. 03.
9. 廣田真珠(京都府大院)・河合慶恵・久保田正裕・池田武文(京都府大院)、スギ肥大成長の年変動に及ぼす気象要素の影響と家系間変異、日本森林学会大会学術講演集、130:P1-080、2019. 03.
10. 花岡創・福田陽子、スギの雄花着花性のクローン間差評価に対する順序ロジットモデルの有用性、日本森林学会大会学術講演集、130:P2-123、2019. 03.
11. 中田了五、生立木における辺材圧ポテンシャルの長期間連続高時間解像度測定(第2報)、日本木材学会大会研究発表要旨集、69:A14-10-1600、2019. 03.

12. NAKADA Ryogo(中田了五)・OKADA Naoki(岡田直紀・京都大学)・NAKAI Takahisa(中井毅尚・三重大学)・KURODA Katsushi(黒田克史)・NAGAI Satoshi(永井智・兵庫県立農林水産技術総合センター)、Water potential gradient between sapwood and heartwood as a driving force in water accumulation in wetwood in conifers(針葉樹のwetwoodにおける水分集積の駆動力としての辺材と心材の間での水ポテンシャル勾配)、Wood Science and Technology、53(2):407-424、DOI:10.1007/s00226-019-01081-4、2019. 03.
13. 高橋優介(宇都宮大学農学部)・石栗太(宇都宮大学農学部)・大島潤一(宇都宮大学農学部)・高島有哉・平岡裕一郎・井城泰一・宮下久哉・横田信三(宇都宮大学農学部)、群馬県および長野県に植栽されたカラマツ人工交配家系の気乾密度および曲げ物性の変異、日本木材学会大会研究発表要旨集、69:B15-P-07、2019. 03.
14. 高島有哉・平岡裕一郎・松下通也・山野邊太郎・大平峰子・三嶋賢太郎・平尾知士・田村明・坪村美代子・井城泰一・三浦真弘・栗田学・武津英太郎・高橋誠、土壤乾燥ストレスに対するスギの成長及び生理的応答の評価手法の開発、日本森林学会大会学術講演集、130:P2-120、2019. 03.

092 成長

1. Kieron D. Edwards(エジンバラ大学)・TAKATA Naoki(高田直樹)・Mikael Johansson(ウメオ大学)・Manuela Jurca(ウメオ大学)・Ondrej Novak(パラツキー大学)・Eva Henykova(パラツキー大学)・Silvia Liverani(ウォーリック大学)・Iwanka Kozarewa(ウメオ大学)・Miroslav Strnad(パラツキー大学)・Andrew J. Millar(エジンバラ大学)・Karin Ljung(スウェーデン農科大学)・Maria E. Eriksson(ウメオ大学)、Circadian clock components control daily growth activities by modulating cytokinin levels and cell division-associated gene expression in Populus trees. (ポプラにおいて生物時計遺伝子が制御する日周的な成長)、Plant Cell and Environment、41:1468-1482、2018. 06.
2. 近藤禎二(森林総研非常勤職員)・山田浩雄・磯田圭哉・山口秀太郎・大塚次郎・久保田正裕・生方正俊、コウヨウザン萌芽林の成長と樹幹特性、関東森林学会大会講演要旨集、8:21(No40)、2018. 10.
3. 久保田正裕・武津英太郎・松永孝治・倉原雄二・栗田学、九州育種基本区におけるヒノキ第2世代精英樹の選抜時の成長について、九州森林学会大会研究発表プログラム、74:49、2018. 10.
4. 那須仁弥、気象条件に関連した東北育種基本区におけるアカマツの成長の家系間変異、日本森林学会大会学術講演集、130:213(F6)、2019. 03.

093 材質(心材色を含む)

1. 飯塚和也(宇都宮大学農学部)・宮本尚子・大島潤一(宇都宮大学農学部)・逢沢峰昭(宇都宮大学農学部)・大久保達弘(宇都宮大学農学部)・石栗太(宇都宮大学農学部)・横田信三(宇都宮大学農学部)、森林・樹木における放射性セシウムの動態(V)ースギの心材の特性および¹³⁷Csの挙動ーBehavior of Radiocesium in Forest and Trees(V)ーHeartwood property and behavior of ¹³⁷Cs in sugi woodー、宇都宮大学農学部演習林報告、54:39-42、2018. 05.
2. 倉原雄二・武津英太郎・栗田学・久保田正裕、スギ心材含水率の非破壊的測定手法の検討、九州森林学会大会研究発表プログラム、74:49、2018. 10.
3. 田邊純(千葉大学教育学部)・石栗太(宇都宮大学農学部)・高島有哉・有賀仁紀(宇都宮大学農学部)・三瓶広幸(林野庁東北森林管理局)・大島潤一(宇都宮大学農学部)・飯塚和也(宇都宮大学農学部)・横田信三(宇都宮大学農学部)、青森県下北半島で生育したヒノキアスナロの木材性質、木材工業、73(10):390-395、2018. 10.
4. NAKADA Ryogo(中田了五)、Factors influencing to the measurement of stem water content

- of living trees by dielectric soil moisture sensor(誘電土壌センサーによる生立木の樹幹含水率の測定に影響する因子)、Proceedings of the Society of Wood Science and Technology/Japan Wood Research Society International Convention(2018)、606、7、2018. 11.
5. 磯田圭哉・藤澤義武(鹿児島大学)・大塚次郎・山田浩雄・近藤禎二(森林総研非常勤職員)・生方正俊、由来の異なるコウヨウザンの成長および材質特性の比較、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:31、2018. 11.
 6. 宮下久哉・三浦真弘、日本海岸東部育種区および日本海岸西部育種区選抜ヒノキ精英樹クローンの応力波伝播速度による材質特性評価、日本木材学会大会研究発表要旨集、69:B15-P-08、2019. 03.
 7. 倉原雄二・武津英太郎・栗田学・久保田正裕、九州育種基本区のスギ第一世代精英樹の心材含水率、日本木材学会大会研究発表要旨集、69:B15-P10、2019. 03.

095 その他

1. 田村明、カラマツにおける花芽分化、カラマツ育種技術連絡会情報交換会資料、32、2018. 08.
2. NOSE Mine(能勢美峰)、Transcript profiling during winter dormancy in Japanese cedar (*Cryptomeria japonica* D. Don)(スギにおける冬の休眠の遺伝子発現プロファイル)、Plant Dormancy Symposium Abstract and Program Book、6:106、2018. 10.
3. NANASATO Yoshihiko(七里吉彦)・TABELI Yutaka(田部井豊・農研機構)、Phytoremediation of Persistent Organic Pollutants (POPs) Utilizing Transgenic Hairy Root Cultures: Past and Future Perspectives(残留性有機汚染物質(POPs)を資化する形質転換毛状根によるファイトレメディエーション:これまでの研究と将来展望)、Hairy Roots: An Effective Tool of Plant Biotechnology、doi.org/10.1007/978-981-13-2562-5、2018. 11.
4. RAHMAN Md Hasnat(東京農工大学)・KUDO Kayo(工藤佳世・秋田県立大学)・BEGUM Shahanara(バングラデシュ農科大学)・YAMAGISHI Yusuke(山岸祐介・北海道大学)・MURAISHI Takahiko(村石貴彦・東京農工大学)・NAKABA Satoshi(半智史・東京農工大学)・ORIBE Yuichiro(織部雄一郎)・LEE Chanhui(慶熙大学校)・JIN Hyun-0(慶熙大学校)・FUNADA Ryo(船田良・東京農工大学)、Effects of auxin-transport-inhibitor and defoliation on wood formation in locally-heated *Abies homolepis*(オーキシン移動阻害剤と摘葉処理が局部加温処理を施したウラジロモミの木部形成に及ぼす影響)、IAWA Journal、39(4):353-371、2018. 11.
5. HIRAO Tomonori(平尾知士)・NAGANO Soichiro(永野聡一郎)・NOSE Mine(能勢美峰)、Reconstruction of a full-length transcriptome of *Cryptomeria japonica*(スギにおける完全長転写産物の再構築)、Plant and Animal Genome Conference、27:発表番号 P00529、2019. 01.
6. 福田陽子・花岡創、カラマツ、グイマツ、グイマツ雑種 F1 における葉フェノロジーの比較、北方森林研究、67:23-26、2019. 02.
7. 田村明・玉城聡・清水香代(長野県林業総合センター)・西川浩己(山梨県森林総合研究所)、物理的的刺激処理によるカラマツ短枝芽における炭素、窒素動態、日本森林学会大会学術講演集、130:P2-131、2019. 03.
8. 松永孝治・栗田学・武津英太郎・倉原雄二・久保田正裕、クロマツにおける針葉の展出フェノロジーの遺伝性の検討、九州森林研究、72:103-105、2019. 03.
9. 武津英太郎・高島有哉・井城泰一・藤本高明(鳥取大学)、複数クローンを用いた近赤外分光法によるスギ晩材仮道管ミクロフィブリル傾角予測モデルの検証、日本木材学会大会研究発表要旨集、69:B15-P-13、2019. 03.
10. 織部雄一郎、休眠期に NAA を投与し局所的に加温した落葉針葉樹の樹幹部で観察された新生木部と前年木部に挟まれた生細胞、日本木材学会大会研究発表要旨集、69:A16-10-0945、

2019. 03.

11. 工藤佳世(秋田県立大学)・雉子谷佳男(宮崎大学)・織部雄一朗・佐々木賢二(秋田県立大学)・山岸祐介(北海道大学)・半智史(東京農工大学)・船田良(東京農工大学)・高田克彦(秋田県立大学)、落葉広葉樹における形成層活動と木部形成の季節性、日本木材学会大会研究発表要旨集、69:A16-10-1015、2019. 03.
12. 織田一喜(弘前大学)・織部雄一朗・石田清(弘前大学)、多雪山地に侵入したニセアカシアにおける雪害の影響と木部形質、日本生態学会大会講演要旨集、66:P1-115、2019. 03.
13. 三部真優(弘前大学)・織部雄一朗・石田清(弘前大学)、高標高域におけるミズナラの積雪環境への適応: ミズナラとミヤマナラの葉と木部の形質、日本生態学会大会講演要旨集、66:P1-126、2019. 03.
14. 井城泰一・藤本高明(鳥取大学農学部)・高島有哉・平岡裕一郎・武津英太郎、近赤外分光法によるスギの晩材仮道管 S2 層マイクロフィブリル傾角の推定 第 2 報、日本木材学会大会研究発表要旨集、69:B15-P-12、2019. 03.

10 遺伝資源

101 収集、保存

1. 遠藤圭太・松下通也・木村恵・花岡創・栗田祐子・塙栄一(関東森林管理局茨城森林管理署)・木下敏(林野庁)・安倍波夫・山田浩雄・生方正俊、ブナ種子を超低温保存するための最適含水率、低温生物工学会セミナー及び年会、63:G5、2018. 06.
2. 遠藤圭太、ブナ種子の超低温保存、北海道の林木育種、61(1):30-32、2018. 08.
3. 遠藤圭太・板鼻直榮・山田浩雄・生方正俊、絶滅危惧種オガサワラグワの凍結保存法の検討、Cryopreservation conference(2018)、P18、2018. 10.
4. 川村浩平(北大農)・嘉見大助(農研機構)・鈴木伸吾(北大農)・実山豊(北大農)・田中大介(農研機構)・遠藤圭太・山岸祐介(北大農)・荒川圭太(北大農)、木本植物の超低温保存と越冬機構に関する基礎研究ー形質転換ポプラの超低温保存条件の検討ー、Cryopreservation conference(2018)、018、2018. 10.
5. 堀内玲子(北大農)・実山豊(北大農)・荒川圭太(北大農)・遠藤圭太・田中大介(農研機構)・春日純(帯広畜産大学)・鈴木卓(北大農)、木本植物の越冬機構に関する基礎研究ー北海道で栽培される醸造用ブドウの越冬芽組織細胞の凍結挙動についてー、Cryopreservation conference(2018)、P18、2018. 10.
6. 山田浩雄、林木ジーンバンク事業の成果と今後の方向、森林遺伝育種、7(4):156-158、2018. 10.
7. 遠藤圭太、樹木種子の長期保存技術開発ーブナ種子の超低温保存ー、林木育種情報、29:4、2019. 01.
8. 木村恵・古本良・織邊俊爾、西表島に生育する樹木種子の乾燥耐性、日本生態学会大会講演要旨集、66:P2-112、2019. 03.
9. 井上みずき(日大)・木村恵・岡田友梨子(日大)・川村遼馬(京都府大)・古本良・織邊俊爾、海外産種子の形質を用いた乾燥耐性推定モデルは日本産樹木種子にも当てはまるのか?、日本生態学会大会講演要旨集、66:P2-162、2019. 03.
10. 磯田圭哉・稲永路子・平尾知士、コウヨウザンの葉緑体 DNA 変異解析、日本森林学会大会学術講演集、130:P2-148、2019. 03.
11. 福田陽子、アオダモ遺伝資源の収集、野幌の丘から、189:3、2019. 03.

102 分類、同定、評価

1. 山田浩雄・磯田圭哉・山口秀太郎・近藤禎二(森林総研非常勤職員)・生方正俊・久保田正裕・大塚次郎・倉本哲嗣・藤澤義武(鹿児島大学)・鶴川信(鹿児島大学)・涌嶋智(広島県)・渡辺靖崇(広島県)・松岡秀尚(中国木材)・小西浩和(中国木材)、早生樹「コウヨウザン」の造林

- 樹種としての評価と優良系統の選定、森林総合研究所研究成果選集(平成 30 年版)、44-45、2018. 07.
2. TAMAKI Satoshi(玉城聡)・ISODA Keiya(磯田圭哉)・TAKAHASHI Makoto(高橋誠)・YAMADA Hiroo(山田浩雄)・YAMASHITA Yumiko(山下由美子・和歌山県林業試験場)、Genetic structure and diversity in relation to the recently reduced population size of the rare conifer, *Pseudotsuga japonica*, endemic to Japan(日本の希少樹種トガサワラ(*Pseudotsuga japonica*)における最近減少した集団サイズと遺伝構造および遺伝的多様性との関係)、*Conservation Genetics*、19(5):1243-1255、2018. 10.
 3. 岩泉正和・河合慶恵・三浦真弘・山田浩雄・磯田圭哉・久保田正裕、関西育種基本区におけるヒノキ第一世代および第二世代精英樹集団の多様性評価と血縁評価、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:13、2018. 11.
 4. 岩泉正和・三浦真弘・河合貴之・林田修・飯田啓達・笹島芳信・磯田圭哉・久保田正裕、固有樹種シコクシラベの石鎚山集団における雄花着花と球果結実の年次変動、応用森林学会大会研究発表要旨集、69:32、2018. 11.
 5. 生方正俊・福山友博、ドロノキの葉形質の年次間差、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、7:18、2018. 11.
 6. 生方正俊・遠藤圭太・山田浩雄、コウヨウザンの耐凍性、北海道の林木育種、63(1):33-36、2019. 02.
 7. Mukasyaf A. A. (九州大学農学研究院)・IWAIZUMI Masakazu. G(岩泉正和)・TAMURA Miho(田村美帆・九州大学農学研究院)・WATANABE Atsushi(渡辺敦史・九州大学農学研究院)、Evaluation of the genetic structure of Japanese black pine stand on Ikinomatsubara Coast(クロマツ有名松原「生の松原」における集団遺伝構造の評価)、日本森林学会大会学術講演集、130:P2-150、2019. 03.
 8. 岩泉正和・三浦真弘・久保田正裕・河合貴之・笹島芳信・磯田圭哉、シコクシラベの石鎚山集団における結実モニタリング個体の 5 年間の成長調査結果、林木育種センター年報(平成 30 年度)、129-131、2019. 03.
 9. 山田浩雄・近藤禎二(森林総研非常勤職員)・大塚次郎・磯田圭哉・生方正俊、コウヨウザンの暫定的な収穫予想表の作成、林木育種センター年報(平成 30 年版)、126-128、2019. 03.
 10. 岩泉正和、全国のクロマツ有名松原の遺伝的多様性の解明、関西育種場だより、88:3、2019. 03.
 11. 木村恵・遠藤圭太・磯田圭哉・稲永路子・高橋誠・生方正俊、奥会津森林生態系保護地域(福島県松枝岐村)におけるブナ天然林のモニタリング調査(10 年目)の結果、林木育種センター年報(平成 30 年版)、117-121、2019. 03.
 12. 楠城時彦、八重山諸島の希少樹種、林木遺伝資源連絡会誌、2018:1、2019. 03.

103 情報管理

1. 山田浩雄・安部波夫(森林総研非常勤職員)・生方正俊、林木遺伝資源所在地データベースの作成、日本森林学会大会学術講演集、130:P2-111、2019. 03.

11 天然林等の育種

111 天然林の育種

1. 西村尚之(群馬大学)・平岡裕一郎・小山泰弘(長野県林業総合センター)・岡田充弘(長野県鳥獣対策ジビエ振興室)・鈴木智之(東京大学)、シカによる樹木被害を受けた北八ヶ岳亜高山帯針葉樹林の 19 年間の動態、日本森林学会大会学術講演集、130:P2-166、2019. 03.

12 外国樹種の育種

121 外国樹種の育種

1. MATSUSHITA Michinari(松下通也)、Improvement of *Melia volkensii* by tree breeding activity(林木育種による *Melia volkensii* の改良)、Melia Promotion seminar for Capacity Development Project for Sustainable Forest Management、#Comp.04、2018.05.
2. MATSUSHITA Michinari(松下通也)、Joint Meeting for CADEP Component4: Tree Breeding -Current results of Breeding of *Melia volkensii*-. (ケニア CADEP における *Melia volkensii* 育種の進展)、Interaction Workshop for Capacity Development Project for Sustainable Forest Management、4、2018.06.
3. Jason G. KARIUKI(KEFRI)・MIYASHITA Hisaya(宮下久哉)、Range-wide Progeny Trials of *Melia volkensii* and their Implications in Genetic Improvement of the Species(*Melia volkensii* の広範囲におよぶ後代試験と遺伝的改良の意義)、Proceedings of International Conference on the “Project on Development of Drought Tolerant Trees for Adaptation to Climate Change in Drylands of Kenya”、29-42、2018.08.
4. James K. NDUFA(KEFRI)・MIYASHITA Hisaya(宮下久哉)、Preliminary results on *Melia volkensii* clonal variation in growth and wood properties in the drylands of Kenya(ケニアの乾燥地における *Melia volkensii* の成長と木材特性のクローン変異に関する予備結果)、Proceedings of International Conference on the “Project on Development of Drought Tolerant Trees for Adaptation to Climate Change in Drylands of Kenya”、90-95、2018.08.
5. Nellie M. ODUOR(KEFRI)・MIYASHITA Hisaya(宮下久哉)、Evaluation of some wood properties of *Melia volkensii*(*Melia volkensii* における木材特性の評価)、Proceedings of International Conference on the “Project on Development of Drought Tolerant Trees for Adaptation to Climate Change in Drylands of Kenya”、96-105、2018.08.
6. James K. NDUFA(KEFRI)・MIYASHITA Hisaya(宮下久哉)・Bernard K. KIGWA(KEFRI)・Samuel AUKA(KEFRI)・Gabriel M. MUTURI(KEFRI)、Estimating biomass and carbon stocks of *Melia volkensii* plantation in dryland landscapes of Kenya(ケニアの乾燥地に植栽した *Melia volkensii* におけるバイオマスと炭素蓄積量の推定)、Proceedings of International Conference on the “Project on Development of Drought Tolerant Trees for Adaptation to Climate Change in Drylands of Kenya”、106-116、2018.08.
7. Stephen F. OMONDI(KEFRI)・Joseph MACHUA(KEFRI)・John GICHERU(KEFRI)・MATSUSHITA Michinari(松下通也)・HANAOKA So(花岡創)、Identification of *Melia volkensii* elite trees through microsatellite markers fingerprinting(マイクロサテライトマーカーフィンガープリント法による *Melia volkensii* エリートツリーの同定)、Proceedings of International Conference on the “Project on Development of Drought Tolerant Trees for Adaptation to Climate Change in Drylands of Kenya”、43-48、2018.08.
8. Stephen F. OMONDI(KEFRI)・Joseph MACHUA(KEFRI)・John GICHERU(KEFRI)・MATSUSHITA Michinari(松下通也)・HANAOKA So(花岡創)、Genetic diversity of remnant populations of *Melia volkensii* in Kenya: Implication for conservation and tree improvement(ケニアにおける *Melia volkensii* の生息個体群の遺伝的多様性：保全と改良への意義)、Proceedings of International Conference on the “Project on Development of Drought Tolerant Trees for Adaptation to Climate Change in Drylands of Kenya”、49-55、2018.08.
9. Stephen F. OMONDI(KEFRI)・Joseph MACHUA(KEFRI)・John GICHERU(KEFRI)・Gabriel M. MUTURI(KEFRI)・MATSUSHITA Michinari(松下通也)・HANAOKA So(花岡創)、Genetic diversity and structure of *Acacia tortilis* population in Kenya(ケニアにおける *Acacia tortilis* 集団の遺伝的多様性と遺伝構造)、Proceedings of International Conference on the “Project on Development of Drought Tolerant Trees for Adaptation to Climate Change

- in Drylands of Kenya”、56-65、2018.08.
10. Bernard M. KAMONDO(KEFRI)・Ezekiel M. KYALO(KEFRI)・Paul ONGANDA(KEFRI)・MATSUSHITA Michinari(松下通也)・Celestine INGUTIA(KEFRI)、Status of Seed Production in *Melia volkensii* Clonal orchards(*Melia volkensii* のクローナル採種園における種子生産の状況)、Proceedings of International Conference on the “Project on Development of Drought Tolerant Trees for Adaptation to Climate Change in Drylands of Kenya”、75-89、2018.08.
 11. 千吉良治・生方正俊・井城泰一、海外における林木育種の展開、森林遺伝育種、7(4):164-166、2018.10.

1 2 2 海外の林木育種技術協力

1. 花岡創、ケニアの郷土樹種 *Melia volkensii* の育種を推進するための遺伝資源管理を目指して、森林遺伝育種、8(1):54-58、2019.01.
2. 楠城時彦、海外育種事情調査(ソロモン諸島国およびフィジー共和国)、林木育種情報、30:7

1 3 会議報告

1. 高橋誠、豊かで多様な森林の恵みを未来につなげる林木育種事業 60 周年記念シンポジウム、森林遺伝育種、7(3):125-127、2018.07.
2. 福田有樹・三嶋賢太郎・平尾知士、国際学会 Plant and Animal Genome XXVI への参加報告、森林遺伝育種、7(3):128-130、2018.07.
3. 高橋誠、特集「林木育種事業 60 周年記念シンポジウム」について、森林遺伝育種、7(4):145-146、2018.10.
4. 高橋誠、【特集】「林木育種事業 60 周年記念シンポジウム」 林木育種の次世代化に向けて、森林遺伝育種、7(4):154-155、2018.10.
5. 高橋誠、【特集】「林木育種事業 60 周年記念シンポジウム」 パネルディスカッション、森林遺伝育種、7(4):170-173、2018.10.
6. 松永孝治、森林総合研究所公開講演会で発表、九州育種場だより、37:4-5、2019.01.
7. 栗田学、研究成果を学会で発表、九州育種場だより、38:4、2019.01.

1 4 プログラム開発

1 4 1 プログラム開発

1. 那須仁弥・井城泰一・山野邊太郎、アカマツ品種選択ツールの開発、森林保護と林業のビジネス化(日本林業調査会、208 頁)、199-208、2019.02.
2. 那須仁弥、東北育種基本区アカマツ品種選択ツールの開発、みどりの東北、180:6、2019.03.

1 5 その他

1. CAUDULLO Giovanni(フリーランス)、NAKADA Ryogo(中田了五)、DA RONCH Flavio(パドヴァ大学)、*Larix kaempferi* (Lambert) Carriere, 1856、Enzyklopadie der Holzgewachse: Handbuch und Atlas der Dendrologie(木本植物百科事典: 樹木のハンドブックと図表)、1、doi: 10.1002/9783527678518.ehg2017003、2018.04.
2. NAGANO Soichiro(永野聡一郎)・SHIRASAWA Kenta(白澤健太・かずさ DNA 研究所)・MAEDA Fumi(前田ふみ・千葉県農林総合研究センター)・WATANABE Manabu(渡邊学・千葉県農林総合研究センター)・NOGUCHI Yuji(野口裕司・農研機構)・KATAOKA Sono(片岡園・農研機構)・WADA Takuya(和田卓也・福岡県農林総合試験場)・OKU Koichiro(奥幸一郎・福岡県農林総合試験場)・MORI Miyuki(森美幸・福岡県農林総合試験場)・TASAKI Kimihisa(田崎公久・栃木県農業試験場)・IIMURA Kazunari(飯村一成・栃木県農業試験場)・NAKAYA Akihiro(中谷明

- 弘・大阪大学)・YANAGI Tomohiro(柳智博・香川大学)・HIRAKAWA Hideki(平川英樹・かずさ DNA 研究所)・ISOBE Sachiko(磯部祥子・かずさ DNA 研究所)、Challenge to genomic selection in strawberry at four breeding stations in Japan(日本国内の四試験機関におけるイチゴのゲノミックセレクションの取り組み)、Acta Horticulturae、1203(1):1-8、2018. 06.
3. 平岡裕一郎、ゲノム育種推進拠点施設の整備、林木育種情報、28:7、2018. 07.
 4. 倉本哲嗣、シリーズ：大学・官公庁研究機関の研究室紹介(125)国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター、紙パ技協誌、72(8):112-115、2018. 08.
 5. NANJO Tokihiko(楠城時彦)、沖縄県産テリハボク種子油の利活用に向けて、亜熱帯森林・林業研究会研究発表論文集(平成 30 年度)、:12、2018. 08.
 6. ARAKAWA Keita(荒川圭太・北海道大学)・KASUGA Jun(春日純・帯広畜産大学)・TAKATA Naoki(高田直樹)、Mechanism of overwintering in trees.(樹木の越冬メカニズム)、In: Survival Strategies in Extreme Cold and Desiccation: Adaptation Mechanisms and Their Applications, Iwaya-Inoue M, Sakurai M, Uemura M eds. Springer, Singapore、129-147、2018. 10.
 7. 磯田圭哉、海外林木育種事情調査 中国コウヨウザン事情、林木育種情報、29:6-7、2019. 01.
 8. 永野聡一郎・野口裕司(農研機構)・平川英樹(かずさ DNA 研究所)・磯部祥子(かずさ DNA 研究所)、栽培イチゴ核置換系統の雄蕊形態異常株に特異的なゲノム配列の抽出、園芸学研究、18(別冊 1):394、2019. 03.
 9. 平井裕大(東京農工大学)・胡石(東京農工大学)・山本雅信(東京農工大学)・諾恩達古拉(東京農工大学)・高田直樹・富山浩和(農業・食品産業技術総合研究機構)・小山朗夫(農業生物資源研究所)・奥泉久人(農業・食品産業技術総合研究機構)・John Ralph(ジョン ラルフ・ウィスコンシン大学)・上杉幹子(東京農工大学)・梶田真也(東京農工大学)、一世紀前に奥尻島で発見されたリグニン変異体・赤材桑の解析、日本木材学会大会研究発表要旨集、69:A16-10-0915、2019. 03.
 10. 飯塚和也(宇都宮大学農学部)・瀬戸研祐(宇都宮大学農学部)・大島潤一(宇都宮大学農学部)・宮本尚子・逢沢峰昭(宇都宮大学農学部)・大久保達弘(宇都宮大学農学部)、異なる林齢のスギ樹幹木部における Cs-137 濃度の分布パターンの共通性、日本森林学会大会学術講演集、130:154(P1-166)、2019. 03.
 11. Qing-Wei Wang(東北大学・森林総研 PD)・Maya Daumal(東北大学)・NAGANO Soichiro(永野聡一郎)・YOSHIDA Naofumi(吉田直史・東北大学)・MORINAGA Shin-Ichi(森長真一・日本大学)・HIKOSAKA Kouki(彦坂幸毅・東北大学)、Plasticity of functional traits and optimality of biomass allocation in elevational ecotypes of *Arabidopsis halleri* grown at different soil nutrient availabilities(ハクサンハタザオの標高によるエコタイプにおける機能形質の可塑性とバイオマス分配の最適性)、Journal of Plant Research、132(2):237-249、2019. 03.